

平成29年度 自己評価計画書 (年度末報告)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準・集計結果	評価結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
1 生徒の自己指導能力を育成する「生徒指導の3機能」を生かした授業づくり	① 生徒の自己存在に配慮したわかりやすい授業づくりを指し、板書や教材、話し方や説明などを工夫する。	生徒による授業評価において「授業がわかりやすい」、「教え方を工夫している」と回答する肯定的評価が、全体の A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B 評価 80.4 % 授業がわかりやすい 83.1% 教え方を工夫している79.6%	「授業がわかりやすい」と肯定的に回答した生徒の割合が81.1%、「教え方を工夫している」と肯定的に回答した割合が79.6%であり、平均が80.4%であった。7月の調査と比較しても3%減少している。1年を通じて、生徒の学習意欲を維持するための授業改善が必要である。進路指導と併せた学習指導の推進と生徒の興味関心を引き出す授業の導入などの工夫を図りたい。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の授業評価)
	② 生徒の自己決定感や共感的人間関係に配慮した主体的・対話的な授業づくりを指し、発表活動やグループ活動を効果的に取り入れる。	生徒による授業評価において、「グループ学習などで生徒が発言する場面が多い」、「授業中に自分でよく考えるように努めている」と回答する肯定的評価が、全体の A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 評価 74.8 % 発言する場面が多い=68.8% よく考えるように努めている=80.7%	「グループ学習などで生徒が発言する場面が多い」と回答した生徒の割合が68.8%、「授業中に自分でよく考えるように努めている」と回答した割合が80.7%であり、平均が74.8%であった。7月の調査では80%を超えていたため、大きく数値を下げた。特に、「生徒が発言する場面が多い」の評価が低く、改善の必要がある。小単元ごとに、学習成果や学習の振り返りを、グループ学習に取り入れるなどで生徒の発表力を育てたい。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の授業評価)
	③ わかりやすい授業づくりの一環として、特にICT機器を効果的に活用した授業づくりに努める。	生徒による授業評価において「ICT機器を活用している」と回答する肯定的評価が、全体の A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ※ただし、実習科目を除く	D 評価 63.6 %	教科により使用状況にばらつきがある。地歴公民科や家庭科では85%を超える回答を得ているが、50%程度の教科もある。教員のアンケートでは、約8割が活用していると答えているが非難が見られるので、教員がICT機器の有効性を再認識し、教材の共有化や教科会等で活用できる場を掘り起こすなど工夫が必要である。次年度は、一部のクラスにプロジェクトを常設することで使いやすさ・環境作りを進める。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の授業評価)
	④ 落ち着いた雰囲気の中で日課をスタートさせるために、5分間の朝学習に取り組む。	遅刻者数は1日平均 A 2人未満である。 B 3人未満である。 C 5人未満である。 D 5人以上である。	B 評価 2.14人/1日	昨年度の遅刻数(2.71人/1日)を踏まえ、今年度は(2.0人未満/1日)を目標に掲げた。具体的方策として、「名簿一覧による遅刻生徒の見え直し」「反省文指導」「保護者への連絡」の3点を中心に行った。結果、4～7月までの遅刻数は「1.62人/1日」と効果は見られた。しかし、就職内定後には、3年生の遅刻者が増加し、1月からは、大雪の影響もあり全学年で遅刻者が増加した。結果、1月末現在、遅刻者は「2.14人/1日」となっている。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、1回ずつ実態調査する。
	⑤ 生徒が意欲的に体力づくりに取り組むよう体力データを活用するなど、指導方法を工夫する。今年度も引き続き、持久走に重点的に取り組む。	新体力テストの持久走で6点以上の生徒が A 55%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 40%未満	B 評価 50%	2学期に行った持久走の取り組みの成果により向上が見られた。本校の新体力テストの結果は男女とも全ての種目で県平均を下回っているため、体力の低下が心配される。今回の取り組みでは、1点以上の上昇という課題を持たせることにより、全体的に記録の上昇が見られた。したがって、生徒一人ひとりに意識を持たせて運動に取り組ませることが、今後の課題といえる。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	年2回(5月、2月)の測定により評価する。

学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> どのようなICT機器を活用して授業をしているのか知りたい。生徒が主体的に学習できるよう、効果的にICTを使って授業を行ってほしい。 体験的な学習の積み重ねが生徒にとって身につけやすい。本校の強みは即戦力として働けることであるので、生徒に対しては技術を身につけて世に送り出すような授業を増やして行くことが必要ではないか。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 教員がICT機器を活用することの有効性を再認識し、教材の共有化や作業効率を高めることも視野に入れながら、組織的に活用できるようにその方法を検討したい。 実践的な授業を増やしていくことが出来るように、各教科間での検討を重ねたい。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準・集計結果	評価結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
2 生徒の適性に合った志望進路の実現	① 生徒が主体的に将来の進路をしっかりと考え、進路実現に向けて取り組むよう、各事業の事前事後学習を充実させる。	学校の進路ガイダンスが、主体的に将来を考える上で役立っているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 評価 A=23% B=56% A+B = 79%	各学年(進路オリエンテーション、インターンシップ事前マナー指導、就職ガイダンス、進学相談会、上級学校訪問等)の進路行事のアンケートや感想文では、肯定的評価が高い。ホームページ等での活用で実践的できめ細かな進路指導ができるように改善を図りたい。	B以下の場合、改善策を検討する。	各学年の進路行事の際に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の学校評価)
	② 担任や進路担当が生徒との面談で、次回に保護者との相談結果を報告してくれるよう指導し、生徒の進路意識の高揚を図る。	家庭で、生徒の将来の進路について、話しているとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C 評価 A=17% B=54% A+B = 71%	家庭での進路に関する話し合いについて、進路行事を見直し、保護者への情報提供を企画し進路行事実施の際、保護者の意見や感想を求め、家庭での進路に関する話し合いをする機会を設ける。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、保護者にアンケートを実施する。(保護者の学校評価)
	③ インターンシップや長期型企業実習前に、実施の目的を説明し、基本的な接遇指導を徹底して行う。	受け入れ事業所の実施後アンケートにおいて、生徒の接遇に関する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A 評価 93%	インターンシップには2年生の就職希望者を対象に実施し79名が参加した。また長期型企業研修には農業4名商業10名工業9名の参加となった。長期型企業研修では進路に関する興味関心の高い生徒が参加し本校の取り組みを企業側にも理解していただく好機である。デュアルシステムでの評価結果もおおむね良好であったが引き続き、マナーや規律の順守について指導して行きたい。	C以下の場合、改善策を検討する。	7月から9月の実施後、受け入れ企業にアンケートを実施する。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業に就職してくれている卒業生が多いため助かっているが、求人票のみの就職先では生徒の間口が広がらない。求人票が来ていない企業であっても生徒の希望を叶えられるような進路指導をしてほしい。 就職希望の生徒が増えてい中で、就職した生徒が何年間在籍しているか、進学した生徒は卒業が出来るかを知る必要がある。 					
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導課はもちろん、学校全体の取り組みとして企業開拓を行い、生徒の進路の幅を広げていきたい。 本校新卒者の離職率を把握し、課題を把握することで、生徒には適切な進路指導を行いたい。 					

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準・集計結果	評価結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
3 部活動や生徒会活動の推進による学校生活への参画意識の高揚と規範意識の醸成	① 部活動の指導方法等について顧問が研修を深め、生徒の意欲を引き出す効果的な指導の工夫・改善に取り組む。	1・2年生における部活動への参加状況は、週の活動日にに対して、8割以上参加しているという肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 評価 A = 65% B = 19% A+B = 84%	ほぼ全日参加している生徒が65%、8割以上が19%の参加と高い割合で活動日に参加している。一方で、2年生の未加入者が目立つので加入について働きかけをして、余暇の有効利用や社会生活するための基礎を育成する必要がある。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、部顧問が参加稼働率を報告する。
	② 生徒会執行部が部活動にも働きかけて、学校全体で朝の挨拶運動に取り組む。	生徒の学校評価において、「自分から進んで挨拶している」と回答する肯定的評価が、全体の A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 評価 A = 22% B = 50% A+B = 72%	毎朝登校時には、各部活動単位での自主的な参加と生徒会役員が中心となり、生徒が自ら元気づけ挨拶が出来るようになっている運動に取り組んでいる。挨拶する生徒は増えてきたが、登校時や廊下などですれ違う大人にも、自ら元気づけ挨拶や声かけなど場に応じた対応ができるように指導する必要がある。	Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の学校評価)
	③ 清掃活動を通して、生徒が衛生面への配慮ができるように、教室美化に重点的に取り組む。	教室が毎日の清掃活動で美しく、衛生的であると判断する生徒の肯定的評価が全体で A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 評価 A = 26% B = 52% A+B = 78%	A評価を目指したが、結果C評価だった。今年度、生徒・教員の衛生面・清掃活動の意識高揚をねらい、美化コンクールを実施した。その結果、各教室の荷物・机などの整頓、ゴミ箱周辺に変化が見られるようになった。次年度は、保健委員会の活動を充実させ、生徒の意識を変化させることでA評価を目標としたい。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の学校評価)
	④ 頭髪・服装容儀の乱れや違反している生徒に対して全教職員で声をかけ、指導に取り組む。	学校内で頭髪や服装の乱れた生徒を見かけた時、「声をかけ、その場で直させるよう心がけている」とする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B 評価 78 %	朝の挨拶運動や登校指導の際には、ほとんどの教職員が生徒の声をかけ、頭髪や服装の乱れた生徒を見かけた場合は、その場で直させている姿が見られる。職員の共通理解のもとで学校生活全般を通して指導を徹底する必要があるため、さらに、教職員一人ひとりの意識を高め、どのような場面でも、全職員が共通認識を持って、生徒を指導していくことが必要である。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 本校の生徒は地元で働くことで、地域に貢献している。挨拶をすることや遅刻をしないなど、礼儀や規範意識が大切である。 来客や電話の対応などについては、教師が身をもって指導できるようにしてもらいたい。 					
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 朝の挨拶運動が定着し、自発的に参加する部も増加している。一方で、自ら進んで挨拶できない生徒も散見されるので、朝の挨拶運動だけでなく、クラス、部活動、集会などの多くの場面で指導していきたい。 本校の工業科での「ものづくり」や「農場や商品開発による生産物」を、プレゼンをする活動の中で、接客対応をする経験を通してマナー指導を充実させたい。 					

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準・集計結果	評価結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
4 地域と連携した特色ある教育活動の効果的な情報発信	① 生徒のボランティア活動や地域への貢献活動等の参加を積極的に推進していく。	ボランティア活動や地域の活動に参加することで、ボランティア意識や自己有用感が高まったとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C 評価 A = 21% B = 51% A+B = 72%	学校全体で年2回学校周辺の美化活動に取り組んでいる。他には、畑田を活用した米作りによる環境保全、ボランティア部やダンス部及び吹奏楽部等での施設慰問や地域イベント参加などに貢献している。3月に実施される「能登和倉万葉の里マラソン」では、100名の生徒がスタッフとして参加することとしており、ボランティア意識の向上に努めたい。	Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の学校評価)
	② 専門高校として地域社会と連携した実践的な学習を推進する。	専門学科での地域と連携する事業や学習において実践的な取り組みができているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B 評価 A = 31% B = 49% A+B = 80%	「専門高校における産学連携人材育成事業」ではクルミ割り機の製作とパンの商品開発、及び商品のマーケティングとCMの作成により、各科の専門性を活かした取り組みを行った。また、「七尾城の魅力発見と発信のプロジェクト」や「保育園児との野菜収穫体験」など多くの活動が前期に集中した。取り組みの成果を全学年で共有する機会となる学習成果発表会だけではなく、日常的な教育活動の中から、生徒・保護者への情報提供ができるように努めたい。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。(生徒の学校評価)
	③ 本校の教育活動状況をホームページの更新やメール配信等で積極的に情報提供する。	本校の教育活動状況についての情報提供が行われているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B 評価 A = 20% B = 65% A+B = 85%	今年度は昨年度を振り返り、学校ホームページに学校行事やPTA行事について発信を続け、A評価を目指したものの、達成することはできなかった。評価基準の見直しを含め、携帯電話による連絡網サポートシステムを活用し、紙媒体での配付時や、またホームページ更新時にそれをお知らせすることで改善したい。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、保護者にアンケートを実施する。(保護者の学校評価)
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 「七尾城の魅力発見と発信のプロジェクト」などで七尾市を盛り上げてくれるのは嬉しい。地域の中で学習する機会が多いが、ボランティア参加についても充実させて欲しい。 本校の魅力ある取り組みについて発信してもらいたい。 					
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会で生徒が学んだことを発表することは生徒が成長する大切な機会である。しかし、発表が最終目標ではなく、生徒自身が将来の自己実現につながることで理解できるよう指導していきたい。 生徒の活動状況をいち早く紹介できるように、メールやホームページ、紙媒体での配布に併せて情報発信に努めていきたい。 					